

2022年度(令和4) 伊吹山重要植物調査 計画案

調査事業部 中井宏行

季節	調査予定日 ○数字回数	調査場所と予想対象種
春	① 5/上旬 弥高尾根・ 3合目	(弥高尾根) ヒゴスミレ・アケボノスミレ・ツクバキンモンソウ・カタクリ・ (3合目)イブキスミレ・エゾノタチツボスミレ・フデリンドウ・アマナ (2合目)ヒロハノアマナ
	② 5/中旬 ②笹又登山 道	笹又保護ネット設置に向けての現地調査を兼ねる (笹又)エビネ・ツルガシワ・カタクリ・ヤマブキソウ・ヤマシャクヤク
初夏	③ 6/中旬 3合目	エゾノタチツボスミレ (3~7合目) イワツクバネウツギ・ヤマタツナミソウ
夏	④ 8/上~中旬 山頂	シモツケソウ・ルリトラノオ・マルバダケブキ・キンバイソウ・スズムシソ ウ・クモキリソウなど
秋	⑤ 10/上旬 チチブホソバ 調査 笹又・ドライブ ウェイ	イブキコゴメグサ・シデシャジン・エンシュウツリフネソウ・ヒナノキンチャ ク・イブキレイジンソウ・センブリ・イブキコゴメグサ・チチブリンドウ・ホソ バナツルリンドウ・ウメバチソウ・シデシャジン・エンシュウツリフネソウ・マ ネキグサ・ヒナノキンチャク・イブキレイジンソウ
<p>※今年度は笹又登山道の保護ネット設置のための現地調査を行う予定 五色の滝・山頂・笹又・ドライブウェイの調査は、観察会と兼ねることもある(その場合は、別行動は とらない) チチブリンドウ・ホソバナツルリンドウ調査は、コロナ感染の様子をみて実施するが、昨年度同様10/ 上旬の1回で済ませる。(山側調査は、危険なので重点区のみとする)</p>		

■令和4(2022)年度 啓発事業計画(案)

回	期 日	曜	テーマ	コース	参加費
1	4月10日	日	伊吹山麓の山寺で、春の息吹を感じ、早春の花に出逢おう。	ルッチプラザ出発(13:00)→大久保P(13:30=これより徒歩)→長尾寺散策→大久保P→現地またはルッチプラザ(15:30)(解散)	会員 500円 一般 1000円
2	5月21日	土	伊吹山3合目ハイクで春の花を楽しもう。	ルッチプラザP出発(10:00)→上野登山口→登山道→3合目(昼食)→(オカメが原～高屋周辺)下山→林道→1合目→登山道→登山口→(車)→ルッチプラザP(15:30)	会員 500円 一般 1000円
3	7月16日	土	伊吹山頂で自然と環境について学ぼう。	関ヶ原ふれあいセンター(9:30発)→山頂駐車場(10:00)→西登山口出発→山頂(昼食)→下山→東登山道→山頂駐車場(14:30)駐車場 *植物やシカ防御策、写真等で環境問題について考えながら歩きます。	会員 500円 一般 1000円
4 5	8月 6日 8日	土 月	夏休み企画!親子観察会 見て、聞いて、感じよう!	山頂駐車場(10:00)→西登山口出発→(観察会・自由研究のサポート)→山頂(昼食)→下山→東登山道→山頂駐車場(14:00)駐車場 *終了後、希望者にはスカイテラスで夏休み研究テーマをサポート。	無 料
6	8月27日	土	伊吹山山頂と「笹又登山道」の秋の花を楽しもう。	関ヶ原ふれあいセンター出発(10:00)→伊吹山ドライブウェイ→山頂駐車場(10:40)→西登山道→山頂昼食(13:00)→東登山道(13:30)→山頂駐車場(15:00)→北尾根DW待避所→(笹又登山道)→関ヶ原ふれあいセンター解散(16:00)	会員 500円 一般 1000円
7	9月24日	土	伊吹山3合目ハイクで秋の花を楽しもう。	ルッチプラザP出発(10:00)→上野登山口→登山道→3合目(昼食)→(オカメが原～高屋周辺)下山→林道→1合目→登山道→登山口→(車)→ルッチプラザP(15:30)	会員 500円 一般 1000円
8	10月15日	土	賤ヶ岳に登り、戦国の世に思いを馳せながら、展望を楽しもう。	余呉駅集合(10:00)→大岩山を経て賤ヶ岳山頂(昼食)→旧国民宿舎跡下山・余呉湖を半周回→余呉駅(15:00)	会員 500円 一般 1000円
9	11月26日	土	佐和山城址～彦根城を巡る紅葉のロングハイキング	彦根城西口出発(10時)→清涼寺→佐和山登山道→山頂(昼食)→下山→黒門→彦根城→大手門→登山口にて解散(15:30)	会員 500円 一般 1000円
10	3月11日	土	伊吹の山里で、早春の花々と生きもののにぎわいを感じよう。	関ヶ原ふれあいセンター北側P→伊吹山麓・小泉(13:30=これより徒歩)→林道→大久保→下板並→(小泉P:車便乗)→現地または関ヶ原ふれあいセンターで解散(16時)	会員 500円 一般 1000円

「伊吹山 笹又登山道の希少種保護の取り組み」①

伊吹山ネイチャーネットワーク調査部

①経過

笹又登山道もここ数年、山頂同様に鹿による食害の影響を強く受けています。低層の草本が食害されることで、土壌の乾燥化が進んでいます。今年に入って、高柳教授の指導のもと、防鹿柵(金属製)の設置計画が具体化されました。そして4月16日(土)現地調査により、柵の設置場所の特定と概寸測定が行われました。この調査には、高柳教授・岐阜県・滋賀県米原市・本会が参加しました。その結果決定した設置計画場所は2ヶ所です。

1、静馬ヶ原への分岐点付近(写真①②)

マネキグサ・イブキレイジンソウなどの減少が著しく、この2種の保護を中心にヤマシャクヤク・ジンジソウ・ギンバイソウ・イブキトリカブトなどの保護・復活を想定しています。

2、少し登山道を下がった付近(写真⑥)

ここでは、ヤマブキソウの保護を中心に、ヤマシャクヤク・コケイラン・サンインヒキオコシなどの復活を想定しています

(以上2か所については、岐阜県担当者の方によって、GPSで場所を特定し、地権者の方の許可を得ています。)



①静馬ヶ原への分岐地点



②静馬ヶ原への分岐地点



④笹又登山道

残雪の時期の調査となりました。伊吹山ドライブウェイのご協力に感謝です。



③ヒナノキンチャク生育地

②今後の計画(写真⑤)

防鹿柵の材料(柱や金網)搬入は、業者に依頼しますが、ドライブウェイ笹又待避所までの搬入となることが予想されます。ここから設置場所までは、人力で運び降ろすことになりそうです。多くのボランティアの方の協力が必要です。それ以外にも様々な要素の検討が必要ですが、実現可能な状況になっています。再生協議会によるサポートをぜひ、よろしくお願いします。



⑤ドライブウェイ 笹又待避所

「伊吹山 笹又登山道の希少種保護の取り組み」②

伊吹山ネイチャーネットワーク調査部

③草刈り作業への対応

笹又では、毎年春と秋に登山道の草刈りを行っています。この作業は、岐阜県(揖斐川町)からの依頼に基づいて、地元古谷(ふるや)の住民の方が、担当されています。ところが、希少種であるマネキグサやヤマブキソウは、開花時期ではないため他の植物と一緒に刈り取られてきました。

そこで、今回は、春の草刈り作業に同行し、上記植物の保護の声掛けを行うこととしました。

6月12日(日)当日、保護地域で本会会員2名が待機していると、ふもことから、古谷の方が、上ってこられました。春は植物の草丈が十分に伸びておらず、実際の草刈り作業には至りませんでした。希少植物の説明をさせて頂き、今後の作業への配慮を約束いただきました。



⑥ヤマブキソウ生育地

作業に来られた古谷の方々
左端は本会会員



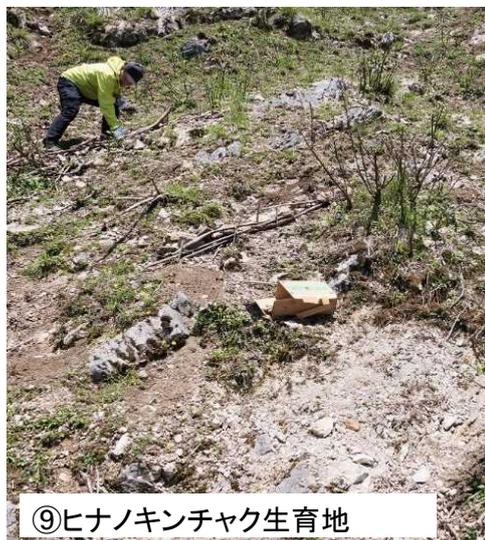
⑦ヒナノキンチャク生育地上側

④ヒナノキンチャク生育地の保護(写真③⑧⑨)

伊吹山山地では希少なヒナノキンチャクの生育地が笹又登山道にあります。この場所は、谷状になった斜面であり、年々崩壊が進んできています。この土砂の流出を防ぐために、今回杭うち作業を実施しました。竹の杭を打ち込んで、そこに周辺の木切れや石を置いて、水流を抑える作戦です。うまくいけば、この杭の下側の地面の保水力が増加し、様々な植物の生育が改善されるのではないかと考えています。まだ試行段階です。今後経過観察することにします。なお、この作業は、岐阜県を通じて、地権者の方の事前了解を得ています。



⑧ヒナノキンチャク生育地



⑨ヒナノキンチャク生育地